



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

CITATION:

天象. 天界 1931, 12(129): 30-33

ISSUE DATE:

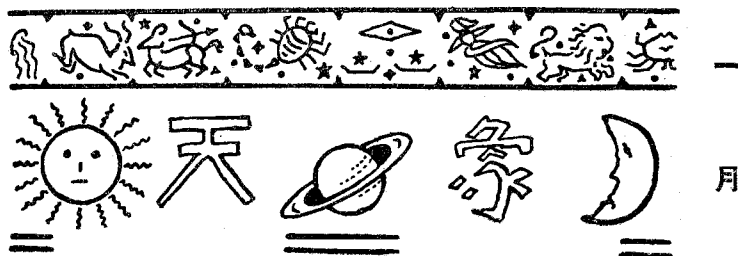
1931-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161744>

RIGHT:

一九三二年



太陽

日	赤 經	赤 緯	視直徑	星 座
1	18時41分18秒	南23度 7分	32分35秒	い て
11	19時24分13秒	南22度 0分	32分35秒	い て
21	20時 8分11秒	南20度11分	32分34秒	や ぎ
31	20時49分55秒	南17度44分	32分31秒	や ぎ

年あらたまつて1932年の初日の出は七時五分であり、十六日も七時五十分月末の三十一日には少し早くなつて、六時五十八分となる。一日の日の入りは四時五十六分、十六日は五時八分、三十一日には五時二十四分となる。扱て月始めは麻羯宮にあるが、二十日より寶瓶宮に太陽は侵入する。又地球は二日午後一時に近日點を通過する。その時の視直徑は最大で三十二分三十五秒七となる。

月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
下 弦	1日午前10時23分	32分13秒	を と め
新 月	8日午前 8時29分	31分34秒	い て
上 弦	16日午前 5時55分	29分37秒	う を
満 月	23日午後10時44分	31分55秒	ふ た ご
下 弦	30日午後 6時32分	32分12秒	を と め
近日點通過	2日午後 7時48分	32分21秒	を と め
最地點通過	15日午後 6時 6分	29分36秒	う を
近日點通過	27日午後 7時 0分	32分32秒	し し

月の出は一日はなく、十一日は午前九時二十一分、二十一日は午後二時三十五分、三十一日は午前零時五十七分、又た月の入りは、一日は午前十一時四十分、十一日は午後八時十九分、二十一日は午前五時九分、三十一日は午前十一時十九分である。

遊 星 界

水 星 曉の星であつて月始めは未だ太陽の光芒に近いが、次第に離れて、十一日正午に西方最大離角となる。その時の角度は二十三度二十七分であつて、最もよく見える時である。此の日は小型望遠鏡で見ると八日月位ひに缺けてゐる。位置は月始め ϵ へびつかひ γ 座 δ 星附近にあるが次第に順行して月末には ϵ 座50星附近に至る。十一日には ϵ へびつかひ γ 座58星附近にある。光度は始め正0.5等であるが十一日に零等となり、月末には負0.2等となる。視直径は月始め程大で八秒四であるが次第に小さくなり十一日に六秒六、月末に五秒二となる。

金 星 宵の星。次第に太陽の光芒より遠のくから月末程よく、又た今月より來月の方がよくなるわけ位置は月始めは ϵ やぎ γ 座17星に近く、次第に順行して月末にはみづかめ座 ϕ 星附近まで達する。光度は大體負3等半で僅かづゝ増加しつつあり、視直径も月始め十一秒八であつたのが、増加して月末には十三秒二までになる。

火 星 宵の星ではあるが、非常に太陽の後に廻つてその光芒中にあるため今月は殆んど觀望出來ぬ。尙來月一日には太陽と合となる。

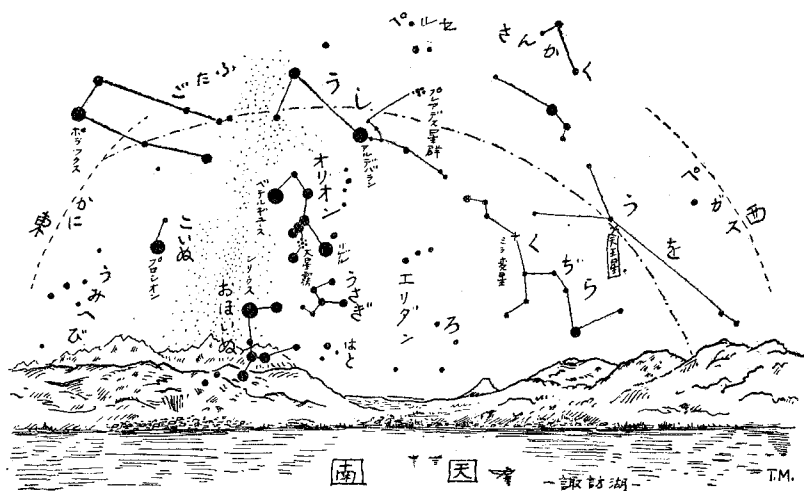
木 星 宵の東天に現はれ今月以後暫らくは遊星界の人気者となる。位置は月始めは ϵ しし γ 座の西端同座4星附近にあつて逆行しつつ、月末には同座と ϵ かに γ 座の境まで至る。光度は殆んど負2等であり、視直径は月始め四十秒四であるが、月末には四十二秒二まで進む。尙視直径の最大即ち地球に最も近寄るのは來月七日頃であるから、月末になる程觀望には適する。

土 星 月始め宵の星であるが十七日に太陽と合となり以後曉の星となる。且つこのため今月は太陽の光芒中にあつて觀望は不可能である。

天王星 宵の星で日が入つて暫らくの間西天に見る事が出来る。位置は ϵ 座 δ 星附近を徐々に順行中。光度6等。視直径三秒四。

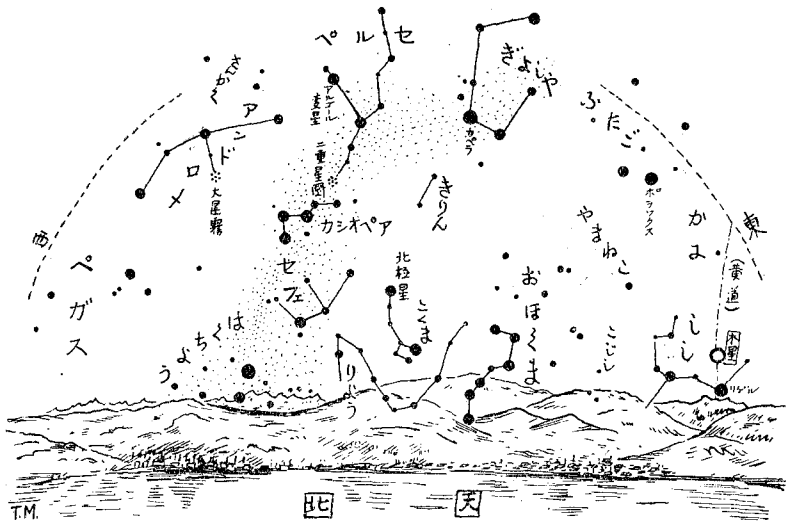
海王星 宵の星 γ しし ϵ 座 ρ 星附近を逆行中。光度約8等。視直径二秒四。

冥王星 宵の星 ϵ ふたご γ 座 δ 星に近いが、觀望の最好期、但し大望遠鏡を要す。



太陽系

先づ二日午後一時に地球が近日點を通過する。この時の地球太陽間の距離は一億四千七百萬軒である。六日午後三時に水星と月と合、七日午前十時に天王星が上矩。八日午後六時火星と月と合、同日午後九時土星と月と合。十日午後七時金星と月と合。此の時金星の方が月の北側一度三十六分の所にある。宵の明星と月と並ぶ様は見事であるから一目見る事を忘れぬ様。十一日正午に水星は西方最大離角二十三度二十七分となる。此の日の早朝日の出前を見るのがよい。同日午後七時火星と土星と合となり一度以内の近距離に並ぶ、火星の方が南側にある。十五日午後二時に天王星と月と合。十七日午前九時に土星は太陽と合。二十二日午後一時に水星は降交點通過。二十五日午前三時に木星と月と合。二十六日午前九時に海王星と月と合となる。此月の天象は大體以上の如くであるが、宵から見える木星が、大家族を引連れてゐる様は小型望遠鏡でも面白い見物である。



遊星界

野山は凡て、一面に純白の雪の衣に包まれて、静かにやすむ夜半、地上の銀世界と、瞬もせず此れを見守る冬の星座とは、共に一年に一度の美しい対照であらう。巨星きらめく大空は、どこまでも限る事の出来ぬ深みを見せて冴え渡り、星を愛づる者にとつては、なつかしい「オリオン」の姿が南天高くに懸つてゐるのもうれしい。

天の河は略南北に流れて、「カシオペア」、「ペルセ」、「おほいぬ」、「こいぬ」を其の流域に含み、「オリオン」と「ふたご」とを兩岸に對峙させて、「ぎよしや」や、「うし」を中流に浮べてゐる。「ペガス」の正方形は西空に傾いたが、「アンドロメ」の渦状星霧や、「オリオン」座 θ 星附近の彼の大星霧は、未だまだ高く、肉眼にもそれと領かれ、小望遠鏡所有者の大なる興味を引くものである。「ブレアデス」は肉眼的星團の好標本。「ペルセ」座二重星團は双眼鏡にて面白い。遊星界の人気者たる木星が既に東の方から上つて來て今後の空を賑はす事となる。